

東中だより



No. 22

文責：高橋 泰

働くって大変 でも、もっとやりたい！ ～2年職場体験学習を通して～

1月16日(火)～19日(金)の4日間、職場体験学習を行いました。碧南市内を中心に、保育園や病院、駅、美容院、飲食店、農園など97の事業所が東中生のために協力してくださいました。事前に志望動機を明確にして決めた体験先だけに、みな思いをもって充実した職場体験活動ができました。事業所の方々のお力添えのもと、学校生活では味わえない貴重な体験となりました。挨拶や礼儀など社会人として必要なマナーや、職種に応じた専門的な活動も体験しました。産婦人科の病院では、出産に立ち会うことも経験したと聞いています。また、車掌や駅員としての体験も貴重でした。保育園や小学校での子どもとのふれ合いも心に残るものがあり、別れ際に涙を流す場面もあったようです。「まじめに取り組んでくれてありがたいです。」など、東中生の行動に対してお褒めの言葉をたくさんいただくことができました。そんな言葉に事業所を回る2年の先生も元気をいただいたようです。生徒は、毎年この体験活動から多くのことを学び、大きな成長を遂げます。体験後、経験した活動をレポートにまとめました。



ご協力いただいた事業所の方にあらためて感謝いたします。



岡村産婦人科で体験 山田日菜子(2-5)

初日に挨拶を済ませるとすぐ、沐浴の体験をしました。助産師さんがやっているのを真似して慎重に洗ってあげました。「私もこんな風に母や祖母にお風呂に入れてもらったのだなあ」としみじみ思いました。気持ち良さそうな赤ちゃんの顔を見ていたら、緊張していたのがとけていきました。

その後、赤ちゃんの採血、聴力検査、体温測定、黄体検査の見学をしました。小さな赤ちゃんの足に注射針が刺された時は貧血を起こしてしまいました。

私の職場体験は2日間でしたが、内容は盛りだくさんで、なかなか見ることのできないことをたくさん体験できました。

命が誕生するという神聖な職場で、きびきびと笑顔を絶やさず働く姿に心を打たれ、あこがれの気持ちが強くなりました。

三洋堂書店で体験 宮本真成(2-1)

僕の職場体験先は書店でした。仕事の内容は、本のパックとDVDの返却、買い取った本の点検などです。その中で、驚いたことは本をパックする量の多さです。店員さんは、いつもは400冊から600冊の本を手作業でやっているそうです。僕が3時間かかってやった作業を店員さんは1時間半で終わらせていました。慣れてくるうちに大変だった仕事がだんだん楽しくなってきました。速さに気を取られていると、「書店の仕事は速さではなく正確さが大切」と言われました。この言葉は他の仕事でも言えると思います。速さばかり重視しているとミスが増えて回りに迷惑をかけてしまいます。正確さを重視すればミスが減ります。

僕は、この言葉を忘れずにこれからの生活に役立てていこうと思います。

いのちと夢のコンサート

～ 弓削田健介氏（合唱作曲家）を招いて ～

日時：平成30年2月15日（木）13：55～15：20 場所：東中体育館

いのちの大切さ、夢を追って生きていくことの素晴らしさについて、素晴らしい歌と語りで伝えていただけます。全校生徒だけでなく、保護者の方もぜひ一緒に!!

入学説明会でスマホ教室

1月27日（土）に入学説明会を行いました。来年度の新入生は通常学級生徒200名、特別支援学級生徒2名の合計202名の予定です。多くの保護者の方にお越しいただき、学校の概要やきまり、入学時に用意する持ち物等についてお伝えしました。

後半には、縁エキスパートの川村彰子さんにお越しいただき、「スマホ教室」を行いました。LINE等SNSの利用に伴うトラブルやその対策、フィルタリングの必要性など具体的にお話いただきました。

昨年大変好評でしたので、今年もこの入学前の機会に行うことにしました。

今年度春の実態調査では、全校における携帯電話やスマホの所持率は年々増加傾向にあり、おおよそ6割です。入学のこの機会に買い与えるご家庭が多いようです。会場では、子どもの使い方を心配される方も多く、熱心にメモをしてみえる方を多数見かけました。

学校としては、携帯電話を持たせたくないという思いが強いですが、塾など夜間の外出等で心配される保護者も多く、持たざるを得ないと考えられることも多いようです。講師の方が言ってみえたように、「携帯電話を買い与えるのではなく、親が買った携帯電話を貸与する。そして、ルールが守れなかったら親に返してもらう。」そんな与え方がよいのではないかと感じます。

校内で見つけた この一冊

第2図書室の書棚にあります



「君たちはどう生きるか」

原作 吉野源三郎

漫画 羽賀 翔一

原作は80年ほど前に書かれたものですが、漫画化されるとともに大ベストセラーを記録しました。始業式で紹介した本です。

主人公は15歳の少年。本田潤一君、あだ名はコペル君。

暴力をふるう上級生に立ち向かおうと友と誓い合います。しかし、友達がいじめられているのを前に、コペル君は怖気づき、立ちすくんでしまい何もできませんでした。そして、友達を裏切り死んでしまいたいと思う。そんなシーンから、この物語は始まります。

この本のタイトルは「君たちはどう生きるか」ですが、こう生きなさいと書いてある本ではありません。

どう生きるかを、自分で考え続けること、そして考え続けることを放棄しないということの大切さが書かれている本です。

さあ、あなたもこの本を手にとってみませんか？